

令和４年度 益子町立田野中学校 学校評価報告書（概要版）

教育目標	○自ら学ぶ生徒 ○思いやりのある生徒 ○進んで鍛える生徒	今年度の重点目標	生徒一人一人の夢や思いを大切にし、確かな学力、 勁さと思いやり、そして健康的で安全な学校文化の創造を地域社会との連携・協働で目指す。 【重点ワード】 人間力の基礎・基盤をつくる 「時を守り 場を清め 礼を正す」	1 「授業第一主義」で、確かな学力を育むための学習指導の充実 2 豊かな心を育てる教育の充実 3 危機管理意識の高揚と基本的生活習慣の確立 4 未来展望に基づいた自主・自立の精神と勁い心身の育成 5 地域社会と連携・協働で行う教育活動の推進	達成度	・アンケート・教職員 評価の肯定的意見 A・・・80％以上 B・・・60％以上80％未満 C・・・40％以上60％未満 D・・・40％未満

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	令和５年度に向けた改善策
現 状 と 学 校 評 価 実 施 計 画				達 成 状 況			【全体】 ・保護者の学習に対する関心が高いことから、Ｂ評価が多いと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、互いを認め合い安心感のある話し合い活動などが実現できている。 ・タブレットや電子黒板などの学習環境や体験活動を通し、学びの場が整えられている。 ・基礎・基本の定着や家庭学習の徹底等の改善においては、学校・家庭・地域の連携が重要である。 ・教職員と生徒の信頼関係が構築されており、落ち着いた学校生活の様子がうかがえる。 ・学校での様子や将来についての会話・話し合いなどは、どの家庭においても日常的に行えるとよい。 ・ネットによるトラブル等が心配される時代であるため、日頃から使用の仕方などの指導が必要である。	【全体】「主体的・対話的・深い学び」の実現と粘り強くやり抜く力の育成に努める。 基礎・基本を定着させるよう、「めあて」や導入の工夫により学力の向上に努める。 学力向上改善プランの改善と全職員の共通理解・共通行動を図り、学力の定着を図っていく。 タブレットの活用など個別指導や家庭学習の方法を検討し保護者との連携を強める。 互いの人権尊重の精神を養うよう、学業指導の充実を図り、帰属意識の高い学級づくりに努める。 道徳授業の充実を図り、道徳的実践力を高める指導の工夫を図る。 生徒に寄り添い、悩みや問題行動の解消に向けて、組織的支援の充実を図る。 自己の危機回避の能力を高められる訓練になるように計画する。 学校・地域の連携により、交通安全教室・立哨指導・校外巡視などを今後も継続する。 日頃の健康意識を高める指導を充実させる。 各教活動において、キャリア教育の充実を図り、将来について深く考える機会を設ける。 生徒が主体的に活動できる活動の場を設置し、達成感を実感させる。 部活動の活動内容の改善を図り、目標をもって取り組めるよう、生徒一人一人を支援する。 学校・家庭、栄養教諭と連携して、食育指導に継続的に取り組む。 一斉メール配信等の活用や HP による情報発信の内容を工夫する。 家庭・地域の協力を得て、学校とのつながりを大切にした活動の充実を図る。
重点	生徒の現状と課題	評価項目（主な方策）	評価指標	アンケート 生徒	保護者	教職員評価 達成度		
1	すべての学年において既習内容や基礎・基本の定着が課題である。導入の工夫や授業の改善により、学力の底上げが必要である。	基礎・基本の定着を図り、めあての提示や導入の工夫をし、分かる授業を目指した指導法の工夫・改善を図る。	生徒・保護者のアンケート結果参考にした教職員評価	A	B	A	基礎・基本の定着のために、個に応じた支援が必要である。	
		授業では、生徒に深く考えさせる場面を設ける。		A	B	A	互いの考えを共有する「話し合い活動」により、思考力・判断力・表現力等の育成を継続する。	
		生徒一人一人の家庭学習の状況を把握し、自らの課題を克服できるよう助言する。		B	B	A	取り組みに個人差がある。個々の課題に応じた指導・助言の充実が必要である。	
2	小学校からの友人関係が固定化している。互いを尊重し認め合う活動を進めている。 学校行事や体験活動などを通し、互いを思いやる機会を設ける必要がある。	生徒が互いの個性を尊重し、言葉遣いや振る舞いに注意し、思いやりに溢れた学級・学校づくりに取り組む。		A	A	A	互いの人権を尊重し、人間関係を構築することができた。	
		道徳の授業では、自分の内面に向き合い、思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりし、多面的・多角的に学べるように工夫する。		A	A	A	自分の考えを他と共有することで多くの考えにふれる機会ができた。	
		生徒一人一人の気持ちに寄り添った教育支援を行う。		A	B	A	保護者と連携し、一人一人の気持ちに寄り添った支援が必要である。	
3	学校内外のルールやマナーをよく守っている。校内では、予告なし避難訓練等を実施し危機回避能力を身に付けている。	避難訓練等をとおして、生徒の危機回避能力の育成に努める。		A	A	A	有事に備えた自己の危機回避能力を高める指導ができた。	
		安心・安全で、規律ある学校生活が送れるよう指導する。		A	A	A	交通安全や規律ある生活について指導が徹底できた。	
		感染症対策を含め健康的な生活が送れるように、指導・支援する。		A	A	A	感染症対策等の継続的指導の充実が図れた。	
4	行事や部活動等には、主体的に粘り強く取り組む。 将来に対する明確な夢や希望が漠然としている。自己理解を深め、将来を展望できるよう、教育活動においてキャリア教育を充実させる必要がある。	将来のことを考え、夢や希望をもつことができるよう、キャリア教育を推進する。		A	C	A	自己を大切にし、将来を考えることができるキャリア教育の充実を図る必要がある。	
		学校行事、生徒会行事では、生徒が主体的に活動できるようサポートする。		A	A	A	コロナ禍でできる生徒主体の学校行事が展開できた。	
		部活動を中心に、粘り強くやり通す勁い心身を育む。		A	A	A	個々の目標をもち、部活動等に積極的に取り組み、充実した活動を展開できた。	
		食事の大切さを理解させ、自己健康管理ができるよう指導する。		B	B	A	学校・家庭が連携し、成長発達を考えた食育の指導の充実が必要である。	
5	ホームページや一斉メール等を活用し、情報を発信している。地域とともにある学校づくりの発展のために理解・協力を求めていく必要がある。	地域・保護者に対し、たよりやホームページ等を活用し、積極的に情報を発信する。		C	B	A	必要に応じた情報発信を積極的に行い、学校・家庭・地域の連携を深める。	
		地域の人材や資源を活用し、地域とのつながりを大切にする。		A	A	A	感染症対策を行いながら、学校を核とした地域づくりについて考えていく必要がある。	